

サーチライトハイク

懐中電灯の明かりを頼りに、ポイントごとに設置された目印を探します。
ドキドキ感を味わいながら、グループの連帯感を高めるのにも最適です。



対 象	小学生以上	実施時期	通年
持ち物	懐中電灯・防寒具・救急バッグ・ハイク用地図（HP より印刷可）		

ねらい

- ・自然に親しむ。
- ・夜の自然の様子を知る。
- ・協調や協同を通して豊かな人間性の育成を高める。

実施の流れ

導入

- ① 安全上の注意（下記「留意点」参照）
- ② 実施方法、コース説明

準備

- ① 指導者は明るいうちにコースの下見をしておきます。（ポイント欠落の有無、危険箇所など）
- ② 危険箇所や、分岐点等に指導者を配置します。
- ③ 持ち物、服装の確認
- ④ 安全上の注意事項・留意事項の説明
 - (ア) 歩き方（つまづき、転落に注意する）
 - (イ) 危険な箇所
 - (ウ) 自然にやさしい活動（ローインパクト）になるように、フィールドマナーに気をつけます。
 - ・動植物の採取や損傷はしません。
 - ・ゴミは持ち帰ります。
- ⑤ トイレを済ませます。
- ⑥ 人数確認、健康観察。

実施

- ① グループごとに5分程度の時間差を設けて出発するといいです。
- ② コースに設置してある目印を懐中電灯で探しながら、グループで協力しながら、ゴールまで歩きます。

まとめ

- ① 人数確認、健康観察。

② ふりかえり

活動のまとめ、感想発表など。

留意点

- ① 夜の活動です。下見を必ず実施しましょう。
ルート、目印の場所、危険箇所、危険な動植物、所要時間などを確認しましょう。
- ② 分岐点やわかりにくい場所には、指導者を配置しましょう。
- ③ 自然にやさしい活動（ローインパクト）になるように、フィールドマナーに気をつけましょう。
 - ・動植物の採取や損傷はしない。
 - ・ゴミは持ち帰る。
- ④ 緊急時等の対応を考えましょう。
 - (ア) 引率者の役割の確認
 - (イ) 緊急時の連絡方法
 - (ウ) 救急薬品等の準備
- ⑤ 荒天時の判断は、参加者の実態等考慮し、団体で決定してください。
- ⑥ 時間を競うゲームではありません。グループで協力しながら安全に歩きましょう。
- ⑦ 目を凝らし、耳をすませて、静かに夜の自然を感じながら歩きましょう。